

SSKR

CIL東大和通信 第17号

編集 NPO法人 自立生活センター・東大和
〒207-0014 東京都東大和市南街1-22-6 シティコート南街1F
TEL : 042-567-2622 FAX : 042-567-2912
EMAIL : cil-ymt@violin.ocn.ne.jp
発行所 東京都世田谷区砧6-26-21
障害者団体定期刊行物協会 定価100円

TRYから無事に帰ってきました☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2009年10月の通信は、TRY報告版です。



今回おこなわれた2009 ASIA TRY in 台湾には、ご存知の通り、東大和からは小日向と高沼が参加しました！皆様のご支援・ご協力をいただきましたおかげで、二人とも多くのものを得て帰ってきました。

今回の号外では、その台湾TRYの報告をしたいと思います。

TRYとは？？	p2
2009 ASIA TRY in 台湾	p2
詳細	p3
TRY準備	p4
TRYレポート 小日向一弘	p8
TRYレポート 高沼萌	p12
ニュース！	p16

TRYとは？？

TRYとは、1986年に兵庫県のCILメインストリーム協会で始まったイベントで、もともとは障害者が鉄道のバリアフリー化を求めて、野宿旅を通して社会に訴えるものでした。

ASIA TRYになってからは、鉄道バリアフリー化だけにとどまらず、広く障害者の人権や自立について訴え、アジアの障害者とその仲間たちと野宿し歩くイベントに発展しました。

2009 ASIA TRY in 台湾

2002年日韓TRY、2007年ASIA TRY IN韓国と、歴史を積み重ね、日本で研修を受けた台湾の障害者が中心となり、2006年に新活力自立生活協会を台北に設立しました。この協会が中心となり、今年2009年ASIA TRY IN台湾がおこなわれました。

自立生活運動がスタートしてから数年の台湾は、まだ障害者に対しての理解が低く、交通機関のバリアフリー化も不十分で、障害者の介助制度や年金制度も未整備の状態です。

介助制度は、月当たりに数時間の支給量で、生活の基盤になるほどのものではありませんし、年金制度は、日本円で月2~3万円程度です。仕事が出来る程度であれば、介助が必要な障害者は、給料の中から外国人のメイドを雇う事が出来ますが、それ以外の場合は、家族や親族が介助や金銭面の扶助を担っているそうです。

そういった状況で、台湾のメンバーとともに、アジア各国から様々な障害を持つ人が参加し、灼熱の太陽の下、国を超えて、障害を越え、共に笑い共に泣き、新しい出会いをつくり、友情を深め、アジアの国々で一人でも多くの障害者が社会の中で自立して暮らしていく社会にするため、このTRYを通してアジアの中に障害者の大きなネットワークをつくることができました。

詳細

☆期間☆

2009年9月1日～10日

☆開催場所☆

台湾6都市(7コース)～台北間

☆規模☆

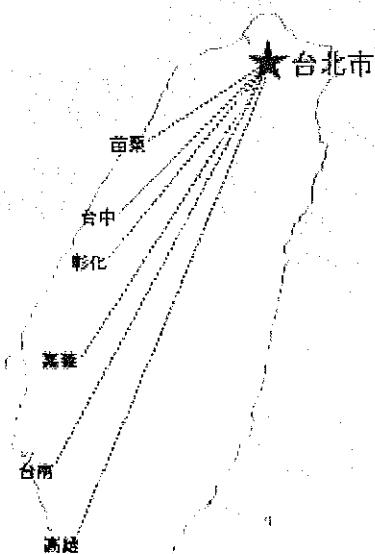
約150名(日本からは約50名が参加!)

☆参加国☆

アジア9カ国の障害当事者が参加

台湾・日本・韓国・タイ・カンボジア・ネパール・モンゴル・カザフスタン・マレーシア

☆コース図イメージ☆



苗栗コース : 150km

台中コース : 200km

彰化コース : 250km

(高沼が歩いたコースです)

嘉義コース : 350km

台南コース : 400km

高雄Aコース : 450km

(小日向が歩いたコースです)

高雄Bコース : 450km

TRY準備

☆プレイベント☆

メインストリーム協会のある兵庫で、TRY前に計2回のプレイベントがおこなわれました！第1弾は小日向・高沼両名、第2弾は小日向が参加して、日本のTRY実行委員同士の親睦とTRYへの理解を深めました。

第1弾・2009年7月7日

「コスプレ募金活動&笹の葉に託す台湾へのメッセージ！」

神戸は元町中華街にて、台湾やアジアの民族衣装を着て募金活動をおこないつつ、道行く人に台湾へのメッセージを短冊に書いて、七夕の笹に吊るしてもらいました。その後全員で銭湯へ。お互いに介助し合いながらお風呂を楽しみました♪（小日向は気管切開してから、なんと初銭湯！ドキドキだったそうです☆）食事を済ませ、アーケード街の一角で皆で野宿したり夜通し語り合って仲良くなりました！



第2弾・2009年8月25日

「3年T組中来田先生！」

兵庫県立総合体育館にて、一泊二日でTRY直前の合宿が行なわれました。一室を3年T組の教室に見立て、TRY参加者が生徒となり、TRY経験者・応援組の人が教師役になり、いよいよ卒業前（＝TRY前）の最後の授業の日という設定で授業を行ないました。時にはTRYのテーマ曲を歌いながら楽しく、TRYとは何か、交通バリアフリー、台湾の文化等を勉強しました。その後、深夜の交流会やコースごとに分かれての打ち合わせなどを行ないました。

TRY テーマソング

いろんなことに 必死になって やり遂げた後の汗に光る
笑顔のすばらしさを 知っていますか

自分の信じた道を行けばいい なかまと信じた道を行けばいい
今はまだ ひたすら前を向き 今しかできないことをやろう

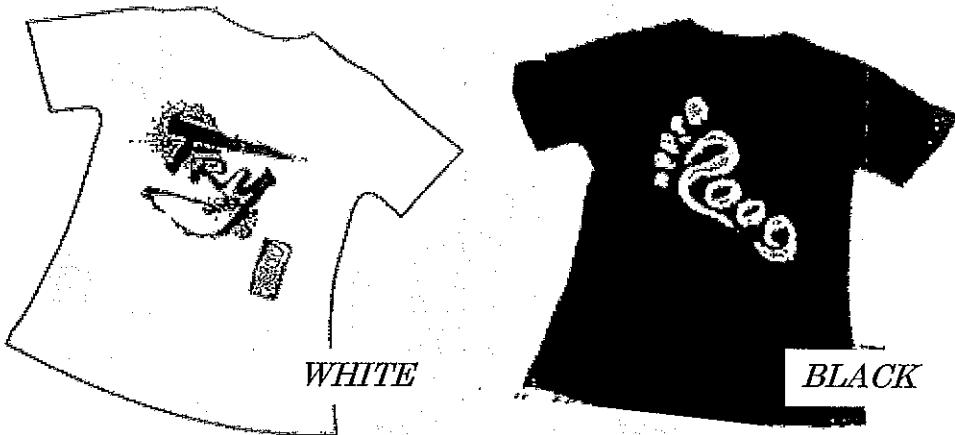
★TRYすることを恐れる前に TRYするすばらしさを知ろう
TRYすることを忘れる前に TRYの心をわかりたい★

この夏のひと時が終わるころ 心の中に何か残ってる
昨日どちらかかった何かを見つけるでしょう

みんな 知っていますか みんな わかってますか
人とは違った何かを見つけるでしょう

★～★繰り返し×2

☆Tシャツ販売☆



こんなTシャツ売りました～！（左の白は表・右の黒は裏のデザインです。）
表・裏ともカッコいいデザインで、大好評でした（＾＾）
ご購入してくださった皆様ありがとうございました！

☆募金活動☆

東大和では、利用者さんやアテンダントさんに協力してもらいながら、計4回の募金をおこないました！立川や東大和でTRYのアピール！元気に声をあげました☆

- ・第1回 7月20日（日）@立川駅北口

参加者：24名

募金額：60,053円



- ・第2回 7月28日（火）@東大和ダイエー前

参加者：23名

募金額：30,175円



- ・第3回 8月9日（日）@東大和ダイエー前

参加者：17名

募金額：27,437円

- ・第4回 8月10日（月）@東大和駅前

参加者：16名

募金額：32,526円



ご協力してくださった皆様、ありがとうございました！





会計報告@東大和

< 収入 >

Tシャツ売り上げ	100,000円
募金総額	150,191円
寄付金	20,791円
合計	271,982円

< 支出 >

募金用横断幕布代	1,995円
募金用横断幕文具代	2,540円
道路使用許可申請×3	6,300円
ビラ印刷代	1,700円
募金時駐車場料金	500円
合計	13,035円

残りの金額はすべて TRY 実行委員会本部に送金させていただき、TRY の活動に使わせていただきました。後ほど、HP にて全体の会計報告を掲載します。
ご協力いただき、ありがとうございました！！

それでは、次のページより、お待ちかねの二人のTRY レポートです！！

TRY レポート 小日向一弘

TRY 前のこと

TRYへの参加を決めるまでは、自分の中で不安や葛藤がありました。主催のTRY実行委員会の方に、「TRYには、健常者は介助者としては参加しない。だから、障害者も特定の介助者をつけることなく参加するものだ」と言われました。簡単に参加できるような気もしましたし、吸引や人工呼吸器等の医療的な部分の介助が、とても困難なようにも思えて、結局、このときは参加を決めることができませんでした。

参加するまで、医療職の人にも強く反対されていました。スケジュールや支援者のこと、現地の対応が不透明だった点等、心配をおかけし、リスクも大きかったと思います。帰国してからも今後の関わりをどうするかで、話し合う必要もありました。

でも、自分がどう生きていきたいかという選択の一つでもありますし、過去のTRY経験者に話を聞き、何とかなりそうだと思いTRYに行くことにしました。

TRYに参加することを決めてからは、バタバタした日々でした。必要なものを急ぎで用意しました。エアマットを求めて某激安の殿堂に行ってみたり、医療機器メーカーに携帯用吸引機を注文したりとあっという間に過ぎていきました。

実際にTRYしてみて

本当に初めて出会うことが多かったのがTRYでした。海外に航空機でいくことも、野宿も、こんなに様々な国の人と一緒に何かを行うことも初めてでした。それは、なんて新鮮で面白いことなのだろうと思います。でも、台湾に渡ってすぐは、職業介助者がいない状況に慣れることに精一杯でした。直前の合宿で、一緒に行くメンバーの人に介助の内容や必要なものを確認してもらっていたものの、あまり介助が何度も出来なかったので、ほとんどぶっつけでした。TRYしながら、介助を覚えてもらうので、そのことでしばらく頭がいっぱいでした。2日程はそんな状態だったのですが、3日目、4日目と、介助の頼み方が段々と分かり、徐々に職業介助者がいないことが自然になっていきました。



また、野宿で寝られるのかどうか気になりましたが、疲れていて、寝るとなれば3秒くらいで寝てしまうので心配ありませんでした。

でも、夜間に人工呼吸器のトラブルがあった際、気づくことが出来ないと大変なので、なるべく固まって寝てもらうようにしました。



日本以外の参加者は、健常者は女性が多かったので、同性にやってもらうことと力が多く必要な介助、人工呼吸器の操作等を除いたことは女性にも頼みました。食事介助や歯磨き等、カフェエーの抜き入れも覚えてやってもらいました。正しいかどうか分からぬ英語や台湾語を混ぜながら、何とか伝えることが出来ました。TRY 中で疲れているはずでしたが、メンバーみんな何かを頼むときに嫌な顔ひとつせずにやってくれたので、TRY や障害のことを理解してくれているんだなと思いました。もう少し時間があったら、吸引も頼めていたかもしれません。さらに時には、障害仲間にも手伝ってもらったりしました。介助以外でも、色々と話ができる良かったです。

TRY 中に、車椅子の充電ができないとか、充電用のプラグを切ってしまうとか（その後、直してもらいましたが）、人工呼吸器も延長コードを挿すと作動しない等、トラブルが起きました。また、最小限と思いつつも、エアマット、吸引機(電動・手動)、人工呼吸器等々と入れていくうち、バッグ五つという大量の荷物での出発になりました。

何が学べた、何が出来たか

私は、高雄(カオション) A というコースでした。高雄 A メンバーの出身国は、日本、韓国、台湾、カンボジア、カザフスタンの5カ国でした。背損協会や、筋ジス協会、脳性まひ者協会等で交流、情報交換して、合同でセミナーを開き、最終的に台北にたどり着くのが目的のコースでした。



TRY は台湾のバリアフリー化、障害者の自立支援や人権確立を訴えていくイベントでしたが、それに付随して、台湾の実情について生の声を聞き、台湾の障害者福祉のことを知り、考えることが出来ました。

障害者が生活をする上で、家族や親族等が介助や金銭面の扶助を担っている場合が多く、私と同じくらい重度の人が自立しているという話はあまり聞かれませんでした。

また、障害者が道の隅で物乞いをしたり、親のような人に見世物にされている様子を街中で見かけて、それが頭に残りました。台湾の経済的な状況も関係があるのかもしれません、障害者の人権が軽んじられているのだと思いました。

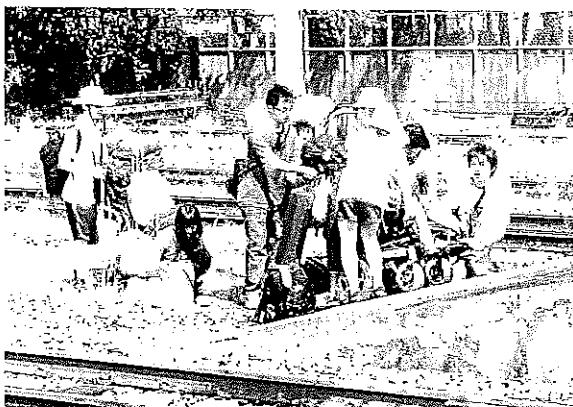
駅舎や道すがら手助けをしてくれる人も多いのですが、まだ、障害が個人の責任、

もしくは問題として捉えられている現状があるようです。台湾でも障害者に対する社会的関心を高め、社会の不作為が障害者を作り出していること、障害者になる可能性は誰にでもあり、必要な支援があれば、社会の中で役割を果たしていく存在であること。障害者でも存在価値があることを訴え続けることが必要だと思いました。あえて、障害者への自立支援や人権と叫ぶ必要のない社会を、日本でも台湾でも実現させたいです。

私はTRYに参加したいから参加したのですが、色々な人の協力で実現しているTRYなので、やるべきこともあると感じました。だから、目的意識を失わないように気をつけました。私は気管切開をして、人工呼吸器を使用している24時間介助が必要な重度の障害者です。サポートもその分必要です。でも、重度の障害があることで伝えられることもあります。私の自立や障害のこと等、こちらから伝えることも大切だと思いましたが、何より重度の障害者が台湾に来て、TRYをしている姿を見せてることでより分かることがあると感じました。



次に、そもそも健常者は介助者としては参加しないこと、野宿旅であるということも大きな意味があると思います。自立生活運動を展開してきている日本では、未だ不十分ではありながらも、障害者福祉の体系はあります。しかしながら、それは日本の当事者やその仲間たちの問題意識の維持と努力によるものです。日本でも障害者福祉制度が充実する前は、障害者に介助者はおらず、健常者のボランティアを集めながら地域での生活を続けたそうです。また、遠距離を移動する場合、公共交通機関のバリアフリーが整っていないければ、容易に移動できません。しかし、どうしても行かなければならない用事があれば、電車が使えず、野宿になったとしても行かなければならぬでしょう。



私のように自立生活運動が最も盛んで、過酷だったときを知らない世代にも、これから自立生活運動が広まっていく台湾でも、障害者の人権やバリアフリーの必要性を理解するためには、「野宿」と「介助者なし」というのは、非常に意味のあることでしょう。

各国の障害者にも様々な人がいま

した。障害者メンバーからも見習うべき点が多かったです。彼らは、非常にTRYに対するモチベーションが高く、ネガティブなメッセージが聞かれませんでした。一から自立生活運動を繰り広げようとしている国では、日本より障害者に対する偏見や差別はハードなはずです。でも、目的をしっかりと持って、自分が何を行いたいか、行うべきかを理解して、社会を変えるために奔走しているようでした。



今後 TRY をどう生かすか



今回のTRYでは多くのことがわかりました。

障害があっても、工夫や努力によって、障害のない人の経験する多くのことができます。でも、時には誰かの協力が必要なこともあります。そのときに、人に対して理解を訴えるなら、求めるなら、自分からも歩み寄り、行動をする必要があります。そのためには、自分で自分のことをちゃんと知らなくてはなりません。自分の体調、どういう時に、どの程度のサポートが必要かを把握し、伝えていくことで、きちんと協力を得ることができます。

TRY中は、そんなことを痛感し続けていました。

今回得たことを今後のCILの活動に生かすとともに、多くの障害者、健常者に伝えたいと思います。

TRY レポート 高沼萌

TRYする前は・・・

私ははじめ、海外で野宿なんておもしろそう！という好奇心と、国際交流をしたいという単純な気持ちから入りました。しかし、TRYの活動を進めTRYのことを知っていくうちに、特定の利用者・介助者が決められていないことを知りました。それは、真夏の南国で10日間の野宿旅という、障害者だけでなく健常者にとっても過酷な状況下だからこそ、お互いにとって好ましい形だと思いました。また、（場合によりますが）誰にでも介助を頼むことが出来るのが「自立」だという認識が私の中にはありました。そのためには自分も、どんな障害を持った人の介助もできるようにならないと！と意気込む気持ちと同時に、純粋にいろんな障害者の介助が同時にできることが楽しみでした。唯一の不安といえば、介助時の緊急性を伴う状態、とっさに意思疎通が図れるかということくらいで、私は、基本的にあまり深く考えずに気楽な気持ちでTRYに参加したのです。

実際にTRYして・・・

まず唯一の不安であった言葉の問題にぶちあたりました。ただの交流ならたどたどしい英語でもなんとかなります。しかし、中心になってチームをまとめるべき存在である台湾と、マレーシアのメンバーが、TRYとはどういうものかということ、さらに障害者の自立についての意識の違いがあつたものだから、まずそれを即刻話し合う必要がありました。

彼女たちは初日からホテルに泊まろうと言い出したのです。それを阻止するために、TRYとはどういうものなのかの説明を、なけなしの英語力で試みました。韓国側とは、日本語を流暢に話せるメンバーが橋渡しの役割をしてくれ、もともと日韓では考え方やギャップがあまりなかったのですが、それが台湾＆マレーシアとの対立を生じさせてしまうこともありました。特に宿泊場所は毎日のように揉めました。

また、日本人メンバーの中でも、障害者2人のTRYや自立についての認識が健常者とは違い、指示を出さない障害者相手にどこまで手を出すべきか、の葛藤が自分の中で生まれました。2人とも外国人からの介助は不安だと言ったため、日本人同性同士





の介助が中心になってしましました。そして私は TRY でフリー介助を楽しみにしていましたが、最初はなかなか思ったようにいきませんでした。重度でかかるトヨレ介助などが必要な外国人障害者の女性は台湾人のリーダー1人だけで、介助をあまり必要としない軽度の障害者と、外国人からの介助は難しい重度の障害者

と、二極化して、どちらに対しても手を出しにくい雰囲気もありました。しかしそれでも、私や他の健常者が、外国人障害者の車椅子を押す等の簡単な介助を進んでしていくことで、少しずつフリー介助に近づいていったので良かったと思います。そんな中最も頑張っていた障害者が、台湾人のリーダーでした。彼女は私たち日本人健常者にもトヨレ介助などを頼んでくれました。私が心配だった介助中の言葉の問題はありません、彼女は介助を使い慣れているのか、的確で落ち着いた指示を出してくれるのでとてもやりやすかったです。台湾では障害者の介助サービス体制が全然整っていません。リーダーの家は割と上流階級のようなので、お金を払って外国人のメイドを雇って介助を使っているのですが、彼女の仕事のお給料では長い時間雇えず、とても苦悩し、涙ぐみながら話してくれました。しかしそんなリーダーでさえ、TRY や自立についての意識の違いがあったため、何度も話し合いをすることになりました。これから台湾を変えていくためにも、台湾メンバーには頑張って欲しいという私たちの願いは、きっと彼女たちの心に届いたと信じます。他にも、ドライバーのボイコットや、韓国人障害者メンバーの体調悪化による涙のリタイア、軽い食中毒…などなど、問題は絶えませんでした。

こうして書いてみると問題だらけのようですが、実際は楽しかったことのほうが多いです。話し合いの雰囲気は決して良いものではありませんでしたが、それ以外はとても和やかでした。台湾メンバーとは衝突も多かったものの、私たちのことをよく考えててくれて本音で正面から向き合うことができたので感謝しています。メンバーは皆素敵なひとばかりでした。

歩きながら「TRY GO！」と皆で声を合わせて叫んでいたら、韓国はもちろん、さんざん話し合いをしなければならないほど TRY や自立への認識にギャップがあった台



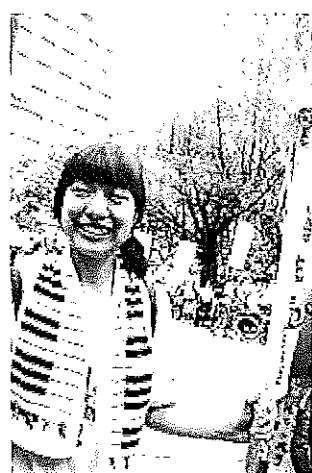
湾&マレーシアのメンバーとも、心がひとつになったような気がしました。TRYのアピールの意味だけではなく、皆の気持ちを高める結果になりました。自立やTRYに対する考え方は一人ひとり違うけれど、障

害者が自由に地域で生きられることを願う気持ちは皆同じだと感じられました。それが、私が今回のTRYで得た、一番大切なものです。言葉はうまく伝わらなくても、「TRY GO!」と声を揃える、それだけで私たちの気持ちはひとつになれたのです。

民家で休憩していたら家人の人からアイスや梨をいただきたり、道端のホースで服のまま水浴びをしたり、それぞれの国の言葉や歌を教えあって歌ったり…皆の笑顔は今でも忘れられません。また、TRYに参加すると価値観変わるよ、と日本で言われていましたが、日本人障害者の子が

「TRYに来てから、どこでも生きていけそう」と言っていたのが印象に残っています。

私もTRYを終えてからおおざっぱな性格にさらに磨きがかかる、水と食料と屋根と服があれば生きていける気がします。下着はなくても困らないこともわかりました(笑)。言葉が通じること、適温な場所で眠れること、お湯のシャワー、おいしいご飯のありがたさが身をもってわかりました。でもあと一ヶ月くらい続けたかったです。TRY中「帰りたい」とは思いませんでした。むしろ帰るのが嫌でゴールのときに泣いたくらいです(笑)。



今後TRYをどう生かしていくか・・・

私は今回のTRYで学んだことがたくさんあります。一人ひとりの自立に対する見解の相違、健常者の障害者へのかかわりかた・障害者の苦悩など…自立というものを意識するきっかけになりました。

人それぞれ考え方は全く違います。だから、私が障害者的人に望む姿を押し付けるのではなく、本人がどうしたいかに耳を傾け一緒に考えていくことが唯一自分にできることだと思います。当たり前のことでも難しい、信頼関係を築くことの大切さを、TRYを通してあらためて実感しました。自分からどんどん障害者とかかわり、また依存し合うことがなく、一人ひとりと良い関係をつくりたいです。

そしてぜひ皆さんにもTRYに参加して欲しいです。健常者・障害者関係なくTRYに行くことで得るものは、きっと大きいはずです。そのために私ができることは、このTRYの経験を周りに伝えていくことです。

また、今回私は英語力不足でふがいなさを感じたので、英語をもっと勉強して、介助従事者としてCILスタッフとして人間として、ひとまわり成長した姿で、次のTRYがあれば、ぜひぜひ参加したいと思っています。

最後になりますが、TRYに参加して本当に良かったです。ここまで読んでくださった皆様、TRYにかかわった全ての皆様、ありがとうございます。TRY GO!!



最後に嬉しいニュースです☆

今回のTRYが台湾の新聞「自由電子報」に載り、小日向くんのインタビューも掲載されました!!新聞デビューIN台湾だ!すごいですね!

これがその新聞です。

自由時報

The Liberty Times · 生活新聞

yes123求職網 新聞欄



自由新聞

影音娛樂

讀書園地

旅遊玩樂

好康報報

TAIPEI TIMES

Blog

頭版新聞

[首頁 > 生活新聞](#)

證券表格

2009-9-2

字型: [中](#) [大](#) | [看推薦](#) | [發言](#) | [回](#)

焦點新聞

政治新聞

社會新聞

生活新聞

國際新聞

愛心暖流

自由言論

爆料投訴

財經新聞

體育新聞

運動影券

健康醫療

地方新聞

影視名人

流行消費

藝術文化

生活副刊

電影廣告

服務專區

藝文爆料

自由徵才

廣告刊登

訂報服務

活動刊登

登山活動

樂透彩券

統一競彩

亞洲9國身障者 環台改善障礙環境

[記者邱紹雲、林嘉琪／台北報導]首次在台灣舉辦的自立生活運動「Asia Try」昨天登場，來自亞洲九個國家超過一百五十位障礙者及志工參與，包括視障、肢障與帶著呼吸器的富症者展開為期十天的環台行，讓社會看見不同障礙者的存在，改善障礙環境。

自立生活 金台7路線

昨天來自亞洲各國的障礙者從中正紀念堂出發，分成七條路線，從台北至桃園、苗栗、台中與高雄等地，過程中由小組討論決定路線與夜宿地點，透過健行宣揚障礙者自立生活的理念，返回台北。

活動參與者有視覺、肢體、聽覺等障礙朋友、帶著呼吸器的國外朋友待在家中二十年不會外出的身障者。

從日本東京來台的小日向一弘，全身癱瘓並有氣切，將第一次出國獻給「Asia Try」。他說，來台前醫師反對，擔憂長途旅程發生危險，但斷反覆問自己，作為一名重度障礙者究竟還可以做些什麼？他選擇走勇敢挑戰身體的極限。

小日向一弘 挑戰戶外野宿

小日向一弘說，過去沒有長途旅行經驗，擔心呼吸器故障，特別準備合，行前也和個人助理研擬戶外野宿方式，希望證明，即使是重度障礙只要透過輔具與適當協助，同樣也能外出。

來自日本沖繩的大城涉也說，到夜市吃飯時，老闆看他使用呼吸器，的表情令他印象深刻，希望更多人學習如何協助障礙者。

新活力自立生活協會副總幹事蔡抒帆說，障礙者也有渴望的生活方式身體障礙，這吃什麼、穿什麼、何時出門都被限制，Asia Try就是讓障礙者累積更多的生活經驗，找回活動力。



2009「Asia Try」在台灣，來自亞洲超過150位障礙者及志工參與，展開為期10天的環台行，讓社會看見不同障礙者的需求。(記者邱紹雲攝)

中国語のわかるアテさんに、「自由電子報」の記事を翻訳していただきました。

↓↓↓

アジア9カ国 身体障害者 環台し（※台湾を周ること）障害者たちの暮らしている環境を改善

台湾で初めての自立生活運動「Asia Try」が昨日始まった。

アジア9カ国から150名以上の障害者（視覚障害、肢体障害及び呼吸器をつけていいる重度障害者等）及びボランティアが、10日間かけて台湾を巡る。
(その目的は、いつもと違う障害者の存在をアピールし、障害者の環境を改善するため)

自立生活 台湾全土アルート

昨日アジア各国から来た障害者たちは、中正記念堂から出発し、台北から7つのルート（桃園、苗栗、台中と高雄など）に分かれてどういう場所に寄るか、どこで寝るかなどをチームごとに検討し歩きながら障害者の自立生活の理念をアピールして10日に台北に戻る。

活動参加者は視覚障害者、肢体障害者、聴覚障害者、呼吸器をつけている障害者、また20年の間一度も外出したことのない障害者もいる。

東京から來た小日向一弘さん（全身性障害、気管切開をしている）は初めての海外経験を台湾に捧げた。

彼は言う。

「台湾に来る前に医師に反対され、長距離の旅はたいへん危険であると心配されました。」しかし、彼は自分に聞いた。

「重度障害者として、自分には何ができるか？」

彼は台湾に来ることを決意し勇敢にも体の限界に挑戦することを決めた。

小日向一弘さん 屋外での野宿に挑戦

「過去、長距離の旅の経験はなかった。呼吸器の故障が心配だったので、今回は特別に予備の呼吸器を持ってきました。

出発前に、野宿の模擬体験もしてきました。」

続けて彼は言う。「重度の障害があっても、必要な機械と人の助けがあれば普通の人と同じように外出できると証明したい。」

沖縄から来た大城渉さんは、

「屋台で食事をした時、屋台の主人が、彼が呼吸器を使っているのを見て緊張した表情をしていたことが印象的だった。

もっと多くの人たちに、障害者を助けることを学んでほしい。」と語る。

新活力自立生活協会副総幹事の蔡抒帆さんは言う。

「障害者たちも自分がしたい生活のスタイルがあるはず。なのに障害があるから食べること、着ること、外出することも制限されてしまう。

Asia Try では、障害者たちにたくさんの経験を積んでもらいながら本来の『活動する力』を取り戻してほしい」

※アテさんのKさん、謝謝（シェイシェイ）！！

小日向くんの言葉に、きっと台湾の障害者、いや、台湾中がエンパワメントされたことでしょう。

小日向、高沼の参加した今回の 2009 ASIA TRY in 台湾。皆様のご協力なしには無事に帰ってくることができなかったかもしれません。皆様のためにも、わたしたちの経験は今後の CIL の活動と、障害者運動に生かしていきたいと思います。

TRY 活動にご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました！！！



☆TRY アルバム☆



編集後記

2009 ASIA TRY が無事終了し、現在、通信や報告会に向けて振り返りをしています。多くの皆さんのご協力・ご賛同を頂きました。ありがとうございました。わたしにとってまさに、大きな試み、挑戦でした。しばらく ASIA TRY はありませんが、TRY は、自分の日常の中にもきっと隠れているのだと思います。日常でも、やりたいことに面倒くさがらずに、トライしていきたいですね。

小日向

＜会費納入のお願い＞

NPO法人 自立生活センター・東大和は皆様の会費が運営
資金となっております。今後も障害を持っていても自分らしい
地域生活を送るために必要な様々なサポートを提供していく
ためご協力ををお願いいたします。



個人会員：3,000円／1口
賛助会員：3,000円／1口
団体会員：10,000円／1口

＜受付時間＞

平日9:00～18:00

緊急連絡はいつでもつながります

NPO法人 自立生活センター・東大和

〒207-0014

とうきょうとひがしやまとしながい
東京都東大和市南街1-22-6 ハイコート南街1F

TEL: 042-567-2622

FAX: 042-567-2912

EMAIL: cil-ymt@violin.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://cil-ymt.com>

